

○入野課長補佐

それでは、ただいまから第55回「内閣府本府政策評価有識者懇談会」を開催いたします。

開催方式につきましては、これまで同様、オンラインシステムを併用しての開催となっております。システム等の不具合がございましたら、事務局までお知らせいただければと思います。

また、本懇談会は、開催規程に基づきまして、公開により進めさせていただきます。

それでは、早速ですが、議事に入ります。

議事の進行につきまして、白石座長、よろしくお願いいたします。

○白石座長

皆様、本日もよろしくお願いいたします。

議題は2つございます。議題1は「内閣府本府政策評価基本計画の見直しについて」、議題2は「その他」でございます。

それでは、議題に関しまして、事務局より概要の御説明をよろしくお願いいたします。

○入野課長補佐

それでは、御説明いたします。

本日、議題1「内閣府本府政策評価基本計画の見直しについて」、議題2「その他」ということで用意しておりますけれども、基本的には議題1の「内閣府本府政策評価基本計画の見直しについて」のみでございますので、議題1について御議論いただければと思っております。

それでは、議題1について御説明させていただきます。

今回「内閣府本府政策評価基本計画の見直しについて」御説明いたします。改めて御説明させていただきますと、第7次の基本計画が今年度までの基本計画となっております、第8次基本計画を策定する必要がございます。策定に当たりまして、内閣府の政策評価の現状と課題、それからそれを踏まえました基本計画の方向性を事務局でまとめましたので、こちらについて御説明をさせていただこうと考えております。あわせて、新たな基本計画に基づく評価においては、評価書様式の見直しを行おうと考えておりまして、事務局案を作成しております。

本日、この御説明する資料は、これ自体を何か精緻化させていくということよりは、本日この資料を基に委員の皆様から御意見をいただいた上で、具体的な基本計画の案を作成しまして、3月になろうかと思っておりますけれども、改めて委員の皆様にご確認をいただきたいと考えておりますので、今日の資料をたたき台として、いろいろと御意見を闊達にいた

できればと考えてございます。

それでは、個々の資料について御説明させていただきます。

まず、資料1を御覧ください。「内閣府本府政策評価基本計画の見直しの方向性（案）」についてです。

まず、1つ目のポツで現在の基本計画に基づく内閣府における政策評価の現状と課題について確認をし、次に、2ポツでそれを踏まえた第8次基本計画の方向性について現在の事務局としての案を御説明したいと思っております。

それでは、まず「1. 現状と課題」から御説明させていただきます。

まず「(1) 計画期間と評価の重点化について」です。

令和2年に現在の基本計画を策定した際に、計画期間等を見直しており、第6次の基本計画まで3年とされていたものを5年に変更しています。

また、政策評価体系に基づき事後評価を行う全ての政策について評価方式を実績評価方式に統一することを行っております。これは、それまでは施策の内容に応じて総合評価方式によるものと実績評価方式によるものとに分かれていたところでしたけれども、これを実績評価方式に統一したというのがこの第7次基本計画のポイントだったと聞いております。評価につきましても、毎年度実施していたものを5年に1度の複数年度評価としたということで、これは従来6次計画までの評価がともすればルーチン化している面があったこともあって改正したということでございます。

あわせて、政策体系の見直しも行っておりまして、令和元年度時点で25政策65施策と細分化されていた施策について、第7次基本計画策定時に25政策31施策と政策体系の整理を実施してきたところでございます。例えば現在は政府広報ということで1つの施策となっているわけですけれども、重要施策に関する広報、国際広報の強化、世論の調査という形で政府広報だけでも3つに分かれていたというところでございます。

これらの見直しが行われた結果、現在は1年度当たり平均しますと6施策を評価することになり、重点的な評価を実施できているのではないかと考えております。もちろん単純に30を5年で割って6施策ということであって、どうしても最終年度、特に今年度、昨年度あたりは施策の数が増えてきてはいるのですけれども、おおむね重点的な評価が実施できているかと考えてございます。

次に「(2) 事前分析表、政策評価書等について」でございます。

第7次基本計画の策定時に、EBPMの観点も踏まえまして、従来作成していた事前分析表に加えて、可能なものについてロジックモデルを作成することにいたしました。実際には全ての施策についてロジックモデルが作成されてきておりまして、内閣府の政策評価の仕組みとして定着していると言えるかと考えております。

一方で、事前分析表や政策評価書については記載事項が多くなってしまっていて、細かい字でかなりびっしり書いていただくというようなものになっていますので、なかなかこの評価の場面では活用されているものの、政策の検討や施策の説明といった際に活用されてい

ると必ずしも言えない状況にあるというところが少し反省点としてございます。

「(3) 行政事業レビューとの連携について」ということで、今回の基本計画、現行の基本計画の策定時に、事前分析表に対応するレビューシートの事業番号を記載するとか、あるいは行政事業レビューで取り上げられるテーマと毎年度の政策評価のテーマをそろえるといった連携を図っているところでありましてけれども、作業に重複感があるといった課題があり、同じような資料を作ることによって部局の中に少し混乱があるといった実態もあるかと思っています。

(4) で、これは現状というよりは課題というところですが、昨年、御紹介させていただきましたとおり、令和5年の3月に政府全体の政策評価に関する基本方針が改正されていますので、これを踏まえた基本計画にしていく必要があるというところが、次期に向けた課題といったところかと思っております。

「1. 現状と課題」については以上でございます。

この現状と課題を踏まえまして「2. 第8次基本計画の方向性」の説明に移らせていただきたいと思います。

第8次基本計画の方向性としまして、基本的な大枠はこの5年間でまず一巡をしたというところでありまして、この大枠自体を何かまた変えるというところは少し混乱があるかということもありますので、大枠を維持しながら、評価の結果を、もう少し見える化と言いますか、見てもらえるような資料にしていくことがポイントと考えております。

具体的に御説明をさせていただきます。

まず「(1) 計画期間と評価の重点化について」ですが、計画期間につきましては、引き続き5年としたいと考えております。

政策評価体系に基づき事後評価を行う全ての施策について、基本的には実績評価方式により、5年に1度の複数年度評価を実施することを原則とするという、この点も維持したいと思っております。その上で、政府全体の基本方針において、政策の特性等に応じて合目的的に適切な方式を用いること、評価の方式の不断の見直しを行うものとするということとされていることも踏まえまして、政策の特性に応じた評価方式による評価を行うことも可能としてはどうかと考えてございます。例えば大綱等に係る施策について、大綱等の策定プロセスにおいて収集した情報を活用した評価を行うことも認める内容にしたいと思っておりますけれども、基本計画の段階で一律に大綱についてはこうするということを決めるよりは、施策の特性に応じて別の評価方式を取ることも可能とするといった形にして、個別に施策を担当する部局と相談するという形が取れないかと考えてございます。

次に、評価実施年以外は事前分析表の更新をモニタリングという形で行いたいと思っております。この点については、昨年のちょうどこの時期からもう少し後の時期になりますけれども、3月に基本計画の見直しを御議論いただいた際に、これまで事前分析表の更新を毎年度部局が行っていたものを、政策評価広報課で取りまとめた一覧表形式の資料により数値の更新を行ってもらいつつ、順調に進んでいる場合には、各施策の事前分析表は修

正しないという形にしました。これについては、今回1年度作業してみたわけですが、部局の側からも資料をどこまで更新していいのか分かりにくいといった声ですとか、ある部分は修正されていてここは修正されていないといったちぐはぐ感もありましたので、改めまして一律更新をしていく形にしたいと考えております。このモニタリングの仕方については、後ほど評価書様式を御説明させていただく場面でも少し触れさせていただければと思っております。

最後ですが、施策については現行の枠組みを維持しつつ、例えば経済政策について、昨年評価書を御確認いただいた中でも、少しまとめ過ぎたのではないかという御意見もいただきましたので、この点について再整理を行うということを検討しております。

(1)につきましては以上です。

「(2) 事前分析表、政策評価書等について」でございます。

これにつきましては、引き続きロジックモデル、事前分析表、政策評価書と、これまでつくってきた資料を同様に作成するというように考えております。

政府全体の基本方針において、政策評価により得られた情報を政策の見直しや改善を含む意思決定過程において活用することを推進するとされていることを踏まえまして、意思決定過程や施策の概要説明で活用していただけるように、各資料の様式について見直しを行ってはどうかと考えております。この点については、後ほど資料2の様式例に従って少し御説明をさせていただければと思っております。

「(3) 行政事業レビューとの連携について」というところですが、事前分析表の一部、これも後ほど御説明できればと思いますが、詳細な部分で行政事業レビューシートと内容が重複してくる部分については、行政事業レビューシートを活用するといったようなさらなる連携を図るといったことも考えたいと思っております。

最後に「(4) 政策評価基本方針への対応について」ということで、これらの具体的な取組に加えて、基本方針の中で例えば政策評価の機能を最大限活用した新たな挑戦や前向きな軌道修正を積極的に行うことが行政の無謬性にとらわれない望ましい行動として高く評価されるのだといったようなことが記載されていますので、そういった精神がこの内閣府の基本計画においても反映されるような形で修正を行いたいと考えております。

資料1について御説明は以上です。

引き続き、資料2についても御説明をさせていただきます。資料2-1が毎年度作成するロジックモデル、事前分析表の様式案、資料2-2が評価書の様式案ということになります。これも記載していただく内容を大きく変えるものではありませんが、先ほども申し上げたとおり、評価以外の場面でも活用いただけるような資料となることを目指したいと考えてたたき台として作成しているものでございます。

まず、資料2-1でございます。資料2-1は、毎年度作成するロジックモデル、事前分析表の様式案です。

先に作成する資料の全体像を御説明できればと思います。まず、1枚目が表紙で、続い

て2ページ目がロジックモデルでございます。次に、3ページが事前分析表で、このページは概要と記載しておりますけれども、現行の事前分析表は中目標から表が並んでいるような形になっておりますけれども、その中で特にポイントとなるような点について記載していただくことをイメージしております。4ページ目、事前分析表の詳細部分で、この部分が現行の事前分析表に記載いただいているような内容を記載いただくことになるパートということでイメージをしております。

2ページの最初のロジックモデルと3ページの事前分析表の概要で当該施策の大まかな内容を把握することができると。ですから、何か説明を求められたり、あるいは幹部に御説明をする際に、この2枚で何となく施策の全体像を説明することができて、さらに詳細な内容を知りたいと思った場合には、事前分析表の詳細な資料を見ていただくといったことにはどうかというイメージで作成をしたものです。この資料を毎年度作成・更新をしていただくことでモニタリングをしていく形にはどうかと考えております。

各資料について詳細を御説明いたします。

まず、ロジックモデルについて、5ページでございます。ロジックモデルの作成に当たっての考え方について記載をしております。因果関係が整理され、各事業とアウトカム、インパクトとの関係が明確になるといったことを記載しておりますが、これは現行のロジックモデルについての作成の考え方と同じでございます。

次に、6ページ、ロジックモデルの全体構成について御説明をしております。これも「解決すべき問題・課題」があつて、「施策の概要」という点が少し新設の部分でありますけれども、アクティビティがあつて、アウトプットがあつて、それがアウトカムにつながってインパクトにという全体の流れは大きく変えるものではありません。

次に、7ページから個別の事項について御説明をいたします。

まず、7ページですけれども、「①解決すべき問題・課題」「②施策の概要」についてです。これまでロジックモデル、事前分析表を委員の皆様へ御確認いただくに当たり、そもそも各施策がどういうものであり、内閣府として何に取り組んでいるのかという部分の説明が少なかったかと考えております。こうしたことから、①の部分で施策の背景にある問題や課題を記入していただいて、その上で、施策の内容を②に簡潔に記載していただくことを想定しております。ただし、①、②の部分について詳細に記載をして、例えばこのスライドの半分以上が①、②の記載で埋まるということは想定していませんで、さらに詳細な説明が必要な場合には、各部局でパワーポイントの、私どもはポンチ絵と呼んでおりますけれども、そういった資料を作成していると思っておりますので、①、②の部分には簡潔に記載をしていただいた上で、さらに必要な情報は参考資料を添付していただくといったことをイメージしております。

8ページから11ページまでは「施策目標（インパクト）」「中目標（アウトカム）」「活動実績（アウトプット）」「事業の概要（アクティビティ）」についてそれぞれ説明しておりますけれども、記載いただくことを想定している事項は、基本的にこれまでと変わるも

のではありません。

9ページの「中目標（アウトカム）」について資料を御覧いただければと思いますけれども、iii. のところに説明をしておりますが、このアウトカムについては原則として1段階で記載をするものの、1段階に絞り切ることができない場合には例外的に2段階とすることとしております。これは今年度の中でも公文書管理や食品安全の施策についてロジックモデルを御確認いただいた際に、内閣府の取組が直接的には各省を対象としていて間接的に国民に波及するというものがあつたかと思っておりますけれども、そういった場合に、例えば第1段階のアウトカムとして各省向けの効果、第2段階のアウトカムとしてそれを受けた国民向けの効果といったことも示せるといったところを、少しこの段階で整理をして、そういった使い方も可能だということを整理しておくことができればと思っています。

続いて、12ページ、測定指標についてですけれども、これは施策目標、中目標について、それぞれの達成状況を測定することができる指標を設定してもらいたいと思います。これは〇〇〇という形になっていて少し分かりにくいかと思っておりますけれども、この部分には何とか計画の策定自治体数ですとか、あるいは何とかの認知度といった形で指標の内容とか指標のタイトルをこのロジックモデルに記載していただくことをイメージしています。これまではアウトプットについて参考指標を多く設定してもらいましたけれども、できれば参考指標はシンプルなものとしていただいて、測定指標を設定することを原則としてはどうかと考えております。これは政策評価の政府全体の基本方針の中でも有効性に重点を置いた政策評価が掲げられていることも踏まえまして、測定指標をできるだけ設定してもらうことを改めて確認したほうがいいかと考えております。もちろんこれまで評価書を見てくる中でも、測定指標を設定することが難しいものですか、あるいは参考指標の結果からそれを積み上げて総合的に取組を評価している施策はありますので、そうしたものについては参考指標を設定していただくことを妨げるものではございません。

次に、事前分析表について御説明をさせていただきたいと思っております。

14ページは作成に当たっての全体の考え方で、これもこれまでと変わるものではありません。

15ページです。「施策名」につきましては、政策体系上の施策名を記載していただくことをイメージしています。「施策目標」は、ロジックモデルの施策目標の記載と同内容を記載していただくことをイメージしています。

続いて、16ページです。中目標はロジックモデルの内容をそのまま記載していただくということです。ii. のところですがけれども、中目標についての現状と課題を簡潔に説明していただくということで、これは取組の内容というよりは、中目標について現状足元でどのような数字なのかといったことを説明していただくことをイメージしています。iii. で事前分析表を作成する年度の内閣府のその施策としての取組概要、例えば秋にシンポジウムを開催予定であるとか、ガイドラインを公表する予定だとかといった内容を記載いただくことをイメージしています。

続いて、17ページですけれども、iv)の部分については指標について記載をいただきます。評価期間5年度分の数字は詳細版の事前分析表に記載をしていただくことを考えていますので、ここでは事前分析表を作成する年度の足元の数字を記載いただくことを想定しています。一番左の四角には基準となる時点とその時点の実績を記載いただくことを想定しています。次に、真ん中の四角には事前分析表を作成する年度の足元の数字、基本的には事前分析表を作成する年度の直前の年度の数字が入るかと思えますけれども、直近の数字を入れていただくことをイメージしています。一番右の四角には事前分析表を作成する年度の目標値を記載いただきます。これにより、基準年の数字がどうだったか、直近の数字がどの数字まで来ていて、その年度の取組でどういった数字を目指そうとしているのかといったことを記載していただくことをイメージしています。こういった内容をこの事前分析表の概要では中目標ごとに記載してもらおうイメージです。この資料の中では2つの中目標を書いておりますけれども、もう少しそれぞれコンパクトに書ければ3つぐらい入る可能性もあるかと思えますし、1枚で収まらなければ2枚目にとということですが、概要というイメージでいますので、大量の資料をここでつけていくことはあまり想定していません。

次に、事前分析表の詳細部分について御説明したいと思います。

18ページですけれども、中目標と測定指標はロジックモデルから転記するという内容です。

19ページ、20ページで、目標値、基準値の書き方、これはこれまでの事前分析表の詳細部分の書き方と変わるものではありません。

21ページ、まず「(1)参考となる情報」の部分に、これまで参考指標として記載いただいていたような測定指標を理解するために必要となる基本的な数値を記載していただく、あるいはその指標の設定の理由などはここに記載いただくことを考えています。(2)には施策に関連する主な内閣府の事業や行政事業のレビューシートの番号等を記載していただくことをイメージしています。この事前分析表の詳細の部分については、行政事業レビューのレビューシートを活用できる施策、例えばアイヌ施策などは1つの事業で構成されていたかと思えますので、そういったものについては行政事業レビューシートをそのまま活用できるというところを認めてはどうかと考えております。

以上がロジックモデル、事前分析表の説明になります。

少し長くなっておりますけれども、次に、資料2-2に沿って御説明をいたします。資料2-2は政策評価書の様式案でございます。

23ページ、ロジックモデルになります。これは評価期間の初年度、事前分析表に併せて作成したロジックモデルをそのまま活用いただくことを想定しています。

24ページが政策評価書で、25ページが事前分析表の詳細版を評価書にしたものということになります。事前分析表の詳細版の部分は事前分析表を毎年度更新いただく過程で作成されて、5年更新することによってほぼできているというものになると思えますので、そ

れを活用いただくこととなります。

26ページ、評価書の作成に当たっての考え方です。政策の見直し・改善や新たな政策の企画の立案に反映させる見地から行ってもらうということを記載しています。

評価書の詳細について御説明をします。

27ページです。一番左の欄には「評価期間中の取組」を記載いただこうと思っています。毎年度作成していただく事前分析表の毎年度の取組における記載を基にして、5年間の取組の概要を記載していただきたいと思っています。一番下の黒色の枠内には、事前分析表において設定した指標を測定する際の基準値を記載いただくことを考えています。

続いて、28ページ、「評価期間中の取組に対する分析」の欄、真ん中の欄ですけれども、ここには達成手段が目標達成に十分に寄与したか、あるいは事前に想定できなかった外部要因の影響はあったかといった観点について記載をいただこうと思っています。

参考資料4を御覧いただければと思いますけれども、参考資料4が現行の事後評価書となっておりますけれども、現行の事後評価書の「評価結果」の欄の「施策の分析」の欄に記載していたような内容を、先ほどの評価書の真ん中の欄に記載いただくことをイメージしています。

資料2-2に戻っていただいて、最後に29ページ、一番右端の「今後の方向性」の欄には、施策の改善や見直しの方向、今後重点的に取り組む事項について記載をいただくということを想定しておりまして、先ほどの現行の評価書の「評価結果」の欄の中でいうと「次期目標等への反映の方向性」などに記載していただいていたような内容を記載いただくことをイメージしております。

長くなりましたけれども、以上、基本的な方向性と様式についての御説明とさせていただきます。

○白石座長

詳細な御説明どうもありがとうございました。

事務局の御説明もありましたとおり、今回の変更について大きな方向性について皆様と御議論いただければと思います。ただ量が多いので、パート別に分けていきたいと思えます。

まずは、資料1の1ページ目「1. 現状と課題」、これを中心にお話しいただければと思います。いつもどおり「手を挙げる」ボタンで順番に行きたいと思えます。よろしくお願いいたします。

佐藤徹委員、お願いします。

○佐藤（徹）委員

御説明ありがとうございました。

この「現状と課題」の表現に関しては、全体としては特に異論はないです。

確認の質問なのですが、1.の(2)の2つ目の段落の3行目に「記載事項が多く、政策の検討に活用されているとは言えない状況にある」という記述があるのですが、ここに関して、政策の検討に活用といった場合、シートの作成過程における検討もあるかもしれないし、シート作成後の活用という両方あるかもしれないし、これはどちらを指しているのかということと、政策の検討に活用されているとは言えない状況にあるのは、記載事項が多いということが主たる要因と想定されておられるのか。ほかにもありそうな気がするのです。そうだとしたらどういったものなのかとか、この辺り、教えていただけますでしょうか。よろしくお願いいたします。

○白石座長

事務局、お願いします。

○入野課長補佐

ありがとうございます。

1点目のシートの作成過程なのか作成後なのかということで申し上げます。資料の記述は少し雑駁だったかと思うところもあるのですが、作成過程で当然施策の見直しを図っていただいて、それを今後の方向性も記載をいただいていますし、今後施策をどうしていくかということも記載いただいていますので、そこは当然施策の見直しに活用されているのだと思います。ただ、この評価書がつくられた後に、例えば何か施策を検討していくときに、この評価書を使ってここがこうなっているからといった使われ方が必ずしも十分になされていないのではないかとということが、記載の意図していたところであります。

2点目の政策の検討に活用されていないのは、評価書の記載の分量が多いからなのかというところですが、もちろんほかの要因はあるかとは思いますが、記載の分量が多いことによって、例えば幹部と議論をするときに、この大部の評価書を持っていて何か御説明をするというのなかなかしにくいという面もあるかと思ったり、例えば外部の方とお話をするときに、この評価書で一から御説明するというのだとなかなか意見交換するのも難しいところがあるのではないかと考えたところがございます。

○佐藤（徹）委員

ありがとうございます。

関連で、活用に関してなのですが、例えば分析表や評価書自体がどういう場面であるいはどういう場でどのように活用するのか、何か具体的なイメージを持っていただけるような例示を提示することも、もしできれば御検討いただければと思います。

以上です。

○白石座長

コメントをいただきました。

続いて、佐藤主光委員、お願いします。

○佐藤（主）委員

よろしくお願いたします。

今の活用のところに関わるのですけれども、2点コメントがあって、1つは、活用の仕方として特に施策を見直すというときには、必ずその下にぶら下がっている事業の見直しを伴うと思うのです。施策自体を見直すことはあり得ないので、そうすれば、行政事業レビュー、レビューシートとの関係が重要になってきて、実際に活用するに当たって、この施策はこれで、この下にこのような事業がぶら下がっていて、測定に対して未達成だねと。では、この事業を重点化してこっちを縮小しようかとか、あるいは何か切り替えていこうかとか、この事業のほうを見直していこうかとか、そういう上と下との関係、施策と事業との関係は有機的に図られているのか。できていないから活用できていないという言い方になるのかもしれないということが1つ。

もう一つ、内閣府の特徴は、この次の話のロジックモデルとも関わるのですけれども、他省庁との関係だと思うのです。子育て支援でも男女共同参画でも交通安全系でしたか、あと経済政策1個取って見ても、内閣府は事業官庁ではないので、それは別に内閣府だけでやっているわけではないことを考えると、この活用の仕方として他省庁とのコミュニケーションで使っているのかというときに、ほかに逆に他省庁も類似した施策で自分たちで政策体系を持っているわけではないですか。事前分析表もつくっているし、レビューシートもつくっているわけではないですか。そちらとの整合性は大丈夫なのか。例えば測定指標などを見ると、実は同じ子育て支援でもとか、同じ交通安全系でも目標が違いますみたいになってしまうと釣り合わないですね。ですから、ほかの省庁との関連施策との間での整合性はどういう形で図られているのか、その辺は課題としてあるのか、あるいは意外とここは何とかクリアしているのか、質問になりますが、お願いします。

○白石座長

事務局、お願いします。

○入野課長補佐

ありがとうございます。

まず、レビューシートとの連携ということですが、基本的には各部局さん、レビューシートを踏まえて評価書を作成いただいているところではありますので、部局の中においてはそのつながりの中でつくられているというか、評価書を確認していても、レビューシートをこういう形でつくっているのが評価書のこの、事前分析表のこの指標をこういう形にするといった整理を各部局さんでされているので、その連携は図られているの

かと思っているのですけれども、一方で、それがこの評価書においてよく見える化できているのかというところはあるかと思いますので、その点について何か様式上工夫ができたりするのかというところを考えたいと思います。

もう一点、他省庁との関係というところですが、特に他省庁との関係で大綱を作成しているような部局は、大綱を作成する過程で指標を整理し、その指標を使って評価書をつくられているところがありますので、そこはある程度統一性は図られてきているのではないかと推測はしますけれども、その点についてよくコミュニケーションが取られるようにといったところで何か工夫できる点はないのかは検討してみたいと思います。ありがとうございます。

○佐藤（主）委員

ありがとうございます。

まさに他省庁とはそういうところでコミュニケーションを取って整合性を図ることが大事で、チェックしてみるといいと思うのです。今はキーワード検索でデータベースでできると思いますので、そこで実は測定目標が全然違いますとか、そごがどこにあるかと。

レビューシートとの関係が気になっていて、事業をやっています、その事業をベースに施策をつくったら本末転倒で、事業は施策の手段であって目的ではないので、逆に本来施策があって、これを実行するためにどのような事業が必要なのかと考えるのが筋なので、単にレビューシートの結果を施策のほうに転記しているからオーケーですというわけにはいかないのかというのと、意外と難しいなと思ったのは、予算要求をするときに今はレビューシートを使おうという話があります。どうしても予算要求は事業単位ではないですか。だけれども、本来は施策でどのような形で予算に反映できるかというところ、これは査定の問題ではあるのですけれども、これも今後の検討課題ではないかと思いました。

以上です。

○白石座長

コメントもいただきました。ありがとうございます。

続いて、横田委員、お願いします。

○横田委員

ありがとうございます。

お二人のダブル佐藤先生に絡んだ質問をさせていただければと思います。

1点目、活用の方法についてなのですが、先ほど一例として幹部への説明みたいな御説明もあったのですが、恐らくそうすると引継ぎなどでも活用していくことができると望ましいのであろうと考えています。省庁の動き、日々の営みのサイクルとレビューシート、この政策評価書を書くタイミングと引継ぎのタイミングがどううまく重なり合

ってくるのかみたいなどころも、どううまく絡められるのか分からないのですけれども、現状はどうなっていて、そういった点の中で工夫して改善していくところができるのか、そういったところで議論がなされていればぜひ教えていただきたいということが1点目になります。

2点目は、レビューシートやあるいは政策評価書内の手間を省くという観点で確認なのですけれども、先ほど佐藤先生がおっしゃったようにレビューシートとの関連づけもそうだし、先ほどおっしゃったように政策評価書内でも同記載のところを関連させていくというところがあったのですけれども、そこを転記というよりも連動させるみたいなことが可能なのか、自動的に入っていくみたいなことも含めてお考えなのかをぜひ伺いたいと思います。

○白石座長

事務局、お願いします。

○入野課長補佐

ありがとうございます。

引継ぎのタイミングとの関係ということだったかと思えますけれども、その点について何かすごく議論したというところではないのですけれども、省庁の実態を申し上げますと、異動のタイミングは1月、4月、7月、秋の10月が多いかとは思いますが、それ以外の時期もかなりいろいろな時期に異動が発生していますので、どこかの時期に合わせてというのはなかなか難しいかとは思いますが。一方で、毎年度事前分析表を更新し、毎年度1年のどこかには最新版に更新されていることで、その引継ぎに活用していただくということなのかと思っております。

○横田委員

ありがとうございます。すみません。あまり分かっていないということがよく分かりました。

○入野課長補佐

なかなか難しいのですけれども、4月1日、あとは国会が終わった後の夏の時期ですとか、ピークの時期はあるのですけれども、どこかの特定の時期に合わせてというのは難しいので、ある一定の期間ごとに最新のものに保っておくことによって引継ぎにも活用してもらえそうなものにしていくということなのかと思っております。

2点目の行政事業レビューとの連携というところで、まさに自動的に反映というところについては、先ほど少しアイヌの施策のところでも申し上げましたけれども、事業レビューシートの内容をそのまま詳細版に使っていただけるようなことはあり得るのかと思うので

すけれども、内閣府の施策の場合、佐藤主光先生の御指摘のとおりなのですけれども、施策と事業が必ずしも一対一対応していないというか、必ずしも事業に落ちていないような施策もやっている部分はありますので、その部分でどれくらい自動連動ができるのかというのは、なかなか他省庁さん、事業を中心とされている官庁さんに比べると難しい面はあるのかと思っております。

○横田委員

ありがとうございます。

全体の感触として政策評価側の基本方針に基づいてかなりお考えいただいていることも理解できましたし、先ほどの引継ぎの件等、うまく一律でするのは難しいという話ではあったのですけれども、多少何らか決めていくときにそういう営みなどと合わせて行うとか、手間を省ける方策を可能な範囲で検討は併せていただければと思います。ありがとうございます。

○入野課長補佐

ありがとうございます。

○白石座長

ということで「1. 現状と課題」は一旦終わりでよろしいでしょうか。

では、2 ページ目の「2. 第8次基本計画の方向性」について、御意見がある場合は手挙げボタンをお願いします。

伊藤委員、まずお願いします。

○伊藤委員

ありがとうございます。

大きな方向性としては私もこちらで異存はないのですけれども、1つは（1）の2つ目のポツの最後のところで「政策の特性に応じた評価方式による評価を行うことも可能とする」となっています。これは例えば総合評価方式を使ってもいいよということなのかと思うのですけれども、ここで例として挙げられていますけれども、実際にそのニーズはあるのかと。かなり負担感があると思いますので、もちろんやりたいところはやってくださいと言うのは全然構わないと思うのですけれども、例えば全体の中で1つ、2つはこういうものがないと困るみたいな圧力が働くと各部局も非常にプレッシャーを感じる可能性がありますので、原則はこの実績評価の方式だということはきちんと説明する必要があると思いました。

これは政策評価そのものとは関わらないかもしれないのですけれども、この間、内閣府の仕事が結構増えていると感じておりまして、経済安全保障ですとか、重要土地とか、今

は防災庁という話も出ていますので、やっていくとまた施策が増えていくというところがあるかもしれませんが、そこはきちんとあまり各部局の負担にならないような形で整理を進める、不断に見直しをするということは必要かと感じております。

以上です。

○白石座長

事務局、何かありましたらお願いします。

○入野課長補佐

ありがとうございます。

いただいた意見を踏まえまして、また検討したいと思います。おっしゃるとおり、大綱の部分について具体的なニーズがあるかという点、どこかの部局から特に御意見を寄せられているわけではないという現状ですので、実績評価方式が原則であるというところをしっかりと説明なり確認できるような形にしていきたいと思っております。ありがとうございます。

○白石座長

それでは、佐藤主光委員、お願いします。

○佐藤（主）委員

御説明ありがとうございました。

今の話ですけれども、念のために、政策の特性に応じた評価方式は決して定量的な評価をやめて定性的な作文でいいという意味ではないですねということが確認です。

もう一つ伺いたかったのは、説明があったかもしれないのですが、一部の施策について再整理というのは「経済政策等」と書いてあったので、具体的にこの経済政策はどのような感じで見直すのかについて決まっていたら教えていただければと思います。

以上です。

○白石座長

事務局、お願いします。

○入野課長補佐

ありがとうございます。

まず、定量的な評価をやめるわけではないですねという点については、もちろんこれが定量的ではなくて定性的に評価する余地があるということを示しているというよりは、どちらかというと、大綱の見直しの過程で、現行の大綱について例えば振り返りをするプロセスがあると思われまして、その中で指標の整理なりをされて、こういった点について達成

ができましたねと。では、次の大綱はこうしていきましょうという検討を行っている場合、ほぼ政策評価と同じような内容の取組が行われているのであれば、例えば各施策の指標の評価に使った資料をもってこの評価書にさせていただくこと、評価に代えていくといったことができないかということを目指していますので、定性的に評価するといったことを趣旨として記載しているわけではありません。それが1点目です。

2点目、経済政策については、休眠預金やNPOが同じ経済政策の中に入っていたかと思えますけれども、その部分を分ける形にして、公益などと足して共生・共助のグループに入るかと思えますけれども、そうした整理ができたかということ为例として挙げているところでございます。

○佐藤（主）委員

分かりました。ありがとうございます。

○白石座長

ほかにいかがでしょうか。

私から、2.の(1)の下から2番目のモニタリングなのですが、これはどのようなイメージの作業というか、これは事務局と担当部署との間で表を提出いただいて数字を確認するというようなイメージでしょうか。まとめて事前分析表を5年なりたってから更新するより毎年やったほうが数字の進捗状況という意味でもいいかと思うのですが、お伺いできればと思います。いかがでしょうか。

○入野課長補佐

ありがとうございます。

これは、今年度は少しやり方を変えてしまいましたけれども、昨年度まで行っていたモニタリングと同じようなイメージをしておりますので、先ほど様式を示させていただいた事前分析表を更新いただくと。その更新いただいた資料をまとめて、有識者懇談会のタイミングで御説明をさせていただいて、もしその中でロジックモデルを変える施策であったり、指標を変えるような施策がある場合については、その部分については特に御説明をさせていただいて御意見をいただくといった形で進めることをイメージしております。

○白石座長

分かりました。

ということで、毎年のチェックは入ると理解しました。ありがとうございます。

ほかに委員の先生方、よろしいですか。

では、進みまして、最後にとということで、資料2-1のロジックモデル、事前分析表、資料2-2の政策評価書様式案について御意見をいただきたいと思えます。いかがでしょ

うか。

佐藤主光委員、お願いします。

○佐藤（主）委員

ありがとうございます。

形はきれいにできているかと思うのですが、先ほど申し上げたとおり、他省庁との関係はどう説明するのかと。最後の事後評価のところの外的要因で説明するのは無理があるかと思えます。政府の中の話なので、外的な要因ではないのです。ですから、できればロジックモデル、前にやっていただいた気がするのです。ロジックモデルの中に、例えば子育て関係であれば厚労省であるとか、交通安全関係であれば警察庁であるとか、経済政策であればもちろん経産省とか、中小企業関係は特にそうですね。ですから、内閣府の中だけではなくて関連する他省庁の事業についてもそこにインプットとして記載いただいて、そこの関係はどうなのかであるとか、その辺り、特に予算を見ると、ボリューム感から見ても内閣府のほう小さくて他省庁のほう大きいという感じがするので、ある種、他省庁の事業の流れと内閣府の政策の流れはどのように関連づけられているのかとか、うまく伴走しているのかとか、もちろん他省庁のロジックモデルも確認の上、彼らの最終的な想定するインパクトと内閣府のインパクトがちゃんと整合的になっているのかとか、あるいは対象が違うというのであったらちゃんとすみ分けできているのかとか、ロジックモデルの中で関連づけが明確だといいかというのがあります。

繰り返しますけれども、事前分析表もよくあるのが、関連事業は全部ありますけれども、関連する他省庁の施策、特に大綱などになれば複数の省庁が関わってくると思うので、そこについても関連施策みたいなものを並べていただいて、そこをクリックすればその省庁の事前分析表に飛ぶような仕組みになっていると、全体的に包括的に政策が見えてくるかという気がしました。

○白石座長

事務局、リプライをお願いします。

○入野課長補佐

ありがとうございます。

いただいた御意見を踏まえまして、検討させていただきたいと思えます。特にロジックモデルについて、他省庁の施策についてどういう書き込みができるのか。現行の計画下はその年々によって、例えば、大綱の他省庁の施策を記載いただいて、参考資料のような形で添付していただいている例もあれば、下のところに※書きなどで書いていただいている例などいろいろありましたので、少しどういった形がいいのか整理をして、統一的にできるのか、あるいは部局によってなのかはありますけれども、そこは少し検討してみたいと

思います。ありがとうございます。

○佐藤（主）委員

ありがとうございます。

特に事前分析表のところは、関連施策を並べてそこに飛ぶようにするというところはそこまでの手間ではないと思うので、ロジックモデルに入れ込むとなかなか複雑になるかもしれませんが、ぜひできる範囲で結構ですので御検討いただければと思います。

○入野課長補佐

ありがとうございます。

○白石座長

それでは、小野委員、お願いします。

○小野委員

ありがとうございます。

何点かありまして、最初は佐藤先生がおっしゃった他省庁と絡む点からなのですが、事前に想定できなかった外部要因の影響はあったのかと、28ページに書かれているのですが、外部要因については結果的に事前に想定できなかったというのはもちろんあるとして、他省庁との関係などは特にそうだと思うのですが、事前に想定できる外部要因があると思うのです。これは他省庁との関係にかかわらず、例えば自治体の取組あるいは世の中の経済状況、景気みたいなものなど、様々な外部要因が関わってくるものが内閣府さんの政策にはすごく多いと思うのですけれども、これはロジックモデルなり事前分析の段階で何らかの形で明らかにしておくというのは、実際に結果が出てどう評価するかというときに結構重要な意味を持ってくると思います。この有識者懇談会の議論の中でもやり取りがあったと思うのですが、他省庁との関係に限らずもともと想定できる外部要因みtainなものをどこかに書いておいていただく、整理していただくことが可能であればよいと思います。これが1点目です。

次に、例えば4ページに指標の数年間の分の実績値などを書く欄があって、これはこれまでに見せていただいたものがどのようになっていたのか記憶が確かではないのですけれども、欄としては5年分あるのですけれども、ここに事前分析表を例えば最初につくって毎年更新していく。5年に1度評価をする年が回ってきて、恐らく施策によって目標とする年度がいつだったり、基準値がいつだったりというのはまちまちなような気もするのですけれども、評価をするときに過去数年間分の実績が見られる状態にあるのが基本的に望ましいというか必要な気がするのです。要するに、どこまでできたのか、どう進んでいるかを見るときに、過去数年分の数字が並んでいたほうが、5年に限らずもっと欄が必要で

あれば増やすということになるかもしれないのですが、それはどういうルールになっているのか、常に過去数年分見られるようにしたほうがいいのかというご質問とコメントです。これが2点目になります。

それから、これは重要なことだと私は思うのですが、先ほどの御説明の中にもあったアウトカムのところ、もちろん効果重視、有効性重視という方向はそのとおりだと思うのですが、すけれども、例えばこの資料の9ページに、いろいろ整理の都合もあって分かるといえば分かるのですが、原則としてアウトカムは1段階にすると。

ただ、今年度の議論にもあったように、先ほども例示としてお話しされたように、内閣府の施策なのですけれども、まず直接的な対象は各省庁があって、そこでの動きがあって、その先に国民から見たアウトカムがあってと。そのようなときに1段階ではということで、例外的に2段階とすると書かれていますが、ここは本来望ましいのは何かという観点からいうと、特に内閣府さんの政策のような場合には他省庁がある場合もあるし、自治体を経由してなど様々なルートを経由して最終的に国民の観点からとなるものも多いと思うので、むしろ原則として複数段階をできるだけ考えてくださいと。評価に関するテキストでも、もともとアウトカムは重要なので何段階かに分けて考えるのが原則みたいになっているところもあります。原則1段階というよりも原則は複数段階を考えていただいて、シンプルにアウトカムは、インパクトの前は1段階でよいという場合は1段階でもいいですと。スペースのことや整理の難しさもあるかもしれないのですが、できれば原則1段階はやめていただいて、アウトプットと最後のインパクトの間をきちんと段階を押さえて考えてくださいということができれば望ましいのかと。

事業、施策によってはそういうことを積極的に設定していただけるといいのかと考えたことがあります。

まだ何点かあるのですが、長くなってしまいますので。

○白石座長

では、事務局、まずは3点についてお願いします。

○入野課長補佐

ありがとうございます。

まず、1点目の外部要因について、あらかじめ分かっているものについてロジックモデルなり事前分析表に記載できないのかという点については、こういった形ができるか検討させていただきたいと思います。ありがとうございます。

2点目の事前分析表について、過去の数字がどうなるのかという点についてなのですが、現在の第7次基本計画下での評価は、実はこの第7次基本計画が5年に1回複数年度での評価というものを取り入れた最初の1ターム目だったこともあって、まず、評価の開始年度にロジックモデルと事前分析表を作成いただくと。そのロジックモデルと事前

分析表に沿った評価、1年間やってみてどうだったかということについて2年目となる翌年に数字を入れて評価書を作成いただくということで、まず翌年度に評価をいただいて、さらに5年が終わったところで評価しましょうということにしていました。まだこの5年目は実は到来していないので、皆様に御確認いただいていたものはこの2年目の評価、翌年の評価を御覧いただいていた状況なので、先生の中に過去1年分というか直近の年度しか入っていないという印象があったのかと思います。この基本計画のタームから5年分の数字が入ってくる形になりますので、それはこの事前分析表が全部埋まって5年分の数字が埋まったものを御覧いただくという中身になってくるかと思います。

アウトカムにつきまして、確かに原則1段階ではなくて2段階というか、ここは原則と言わずに必要な数しっかりステップを、2段階踏む必要があるのならば2段階という書き方もあるのかと思いますが、一方で、段階を設けてそれぞれに測定指標を設定するというと、また測定指標が増えていきますので、シンプルに見やすいものというところとの間でどういった整理ができるのかということをし少し追求してみたいと思います。

○小野委員

ありがとうございます。

もしよろしければ、あと3点あるのですけれども、手短に済ませるので申し上げてよろしいでしょうか。

○白石座長

では、続けてお願いします。

○小野委員

続けて失礼します。

続きの1点目が、定性的な指標についての記述があったかと思うのですが、要するに、数字で測定できないものを無理やり設定しても仕方がないので定性的なものでもよいですと。もっとも一般的な整理だと思うのですけれども、そのときに、ただ、資料の12ページに「定性的な指標でも差し支えない」と書かれているのですが、確かに公開されている情報で判断できるものはそれもあると思うのですが、もう一つ重要なことがあるような気がして、要するに、指標というのはそもそもどういうものなのか、ということがあると思うのです。つまり、13ページにも書かれているのですが、そもそも測定指標は達成度合いを評価するためのものという大原則があるわけですから、定性的指標を使うときにも、文言で書かれるような指標であっても達成度合いが判断できるようなものが原則ですよということをごできればぜひ書いていただくといいのかと。達成度合いあるいは達成できたかどうか、はっきり目標年度のときに言葉で書いてあっても判断できるものというのは、評価指標としての本来の必要条件であると思いますので、もちろん難しいという

話はいろいろあると思うのですが、設定の際に、定性指標についてはそういうものを求めていただくのがよいのではというのがコメントの1点目です。

2点目は、よく分からなかったのですが、以前の、これまで使っていたものだと、目標値を例えば幾つと設定したときに、その根拠はどのような根拠ですと説明する欄があったと思うのですけれども、今回フォーマットが変わる中で、例えば今日の参考資料3の中に目標の設定の根拠という欄があったと思うのですけれども、目標値を明確に書くのはもちろんとして、なぜその数字なのかという説明が非常に重要な意味を持つと思うのです。それが今回出していただいた中ではっきり分からなかったのですが、目標値の根拠を示す欄がどうなるのか。もしなくなるようだったらそれはぜひ残してほしいということになるのですが、これが2点目です。

最後、3点目なのですが、今年度の議論の中にもあったと思うのですが、内閣府さんで全国が対象の政策、そのときに、アウトカム指標の内訳がすごく重要だと思っています。例えば全国平均で何かの進捗が50%といったときに、全国どこでも50%という場合もあるでしょうし、比較的人口規模の多いところとそうではないところとか、あるいは東日本と西日本でもいいですが、差がある場合もあるでしょう。その場合、当然内閣府さんとしての取るべき今後の策は大きく変わってくると思うのです。あるいは国民全般を対象とするような政策でも、国民全体でこのぐらいの進捗という場合と、例えば高齢層と若年層とで違う、意識の浸透が違うみたいなこともあるかと思うのですけれども、そういうことが重要な場面は当然あると思うのです。実際に政策を検討されている現場では当然そういうことを見ていますよという話があるかもしれないですが、評価書をいろいろなところで使っていくましようという流れの中で、内訳についても積極的に何らかの形で、付表でも参考資料でもいいのですけれども、つけることもどこかで求めていただくという御提案というカリクエストというか、これが3点目であります。

長くなりました。以上です。よろしくお願いいたします。

○白石座長

事務局、お願いいたします。

○入野課長補佐

ありがとうございます。

指標の根拠については、詳細な事前分析表の「参考情報」のところに記載いただくようなことをイメージしていましたが、少しそこだと確かに埋没してしまう可能性がありますので、明示的に記載いただくことが分かるように工夫できればと思っております。

最後に御質問いただいた国民全体のというところは、具体的にそれは考え方として提示をしておくイメージということでしょうか。

○小野委員

全国で進捗状況がどのくらいという数字が例えば評価指標としてあったときに、それが地域別でもいいし、何かの属性の区分別に進捗状況や達成状況に差があるようなものがあると思うのですけれども、その場合には差がある、進んでいるところと遅れているところがあること自体がすごく重要なことだと思いますから、そういう状態が起きているのであれば、積極的に参考資料でもいいし、つけていただいて、当然それも判断にも使ってくださいということになると思うのです。実際の現場の御判断ではそういうものを使われることが多いかと思うのですが、この評価書の中にもそういうものを書いていただくというか、重要な結果というか、そういうことで示していただくのがよいのではないかというのが今の点です。

○入野課長補佐

分かりました。そういった点も考えながら評価書なり事前分析表に記載をいただくといったところの考え方が伝わるような記載ができないか、少し考えてみたいと思います。

最後、最初にいただいた定性的にしても達成度合いが客観的に分かるような形でというところはおっしゃるとおりかと思いますので、定性的にしても客観的に達成度合いを測れるようなものになるといったところの考え方がしっかり示せるようにしたいと思っております。

○小野委員

どうもありがとうございました。よろしく願いいたします。

○白石座長

ありがとうございます。

佐藤徹委員、お待たせしました。お願いします。

○佐藤（徹）委員

私からは何点か質問、コメントをしたいと思うのですけれども、1点目は資料2-1の9ページで、先ほど小野委員が指摘されていた部分です。ロジックモデルの簡潔性に関するところで「原則として1段階として記載」というのは厳しい書き方かと感じました。確かに簡潔性を追求するのだったらシンプルなほうがいいのだけれども、あまり単純化すると因果関係のロジック、論理が飛躍してしまっていて、かえってロジックモデル自体が分かりづらくなるとか、それによってボトルネックが発見しづらくなってしまいますと本末転倒になりますので、「原則として」という表現は使わずに、ここは柔軟にお考えいただけるような表現に少し検討いただけないのかというのが、これはコメントになります。

次のページに行きまして、2点目は10ページなのですが、「活動実績（アウトプット）」

について書かれております。ここでは例として窓口の設置、説明会の開催、そして参加者の理解度の向上というものが挙がっているのですけれども、このうち参加者の理解度の向上はアウトプットの例としてはあまりふさわしくないのではないかと思います。基本、アウトプットは実施者視点で設定するもので、行政側でコントロール可能なものということですので、参加者の理解度の向上を行政がコントロールできるのかということ、ここはアウトカムではないのかということ、少し例示はこの部分に関しては御検討いただければと思います。

次の11ページなのですが、これは非常に細かい点で恐縮なのですが、左側にロジックモデルの図があって、一番左側に「⑥事業の概要（アクティビティ）」とあって、その下に「事業等の具体的活動の内容」、私にはイコールの記号のように見えるのですが、これも「=インプット」と書いてあって、もちろんイコールではない、イコールはアクティビティなのですねという話です。非常に細かい話で恐縮です。これまではたしか何億円とか金額がインプットのところに書かれたように思いますので、ここは整合性がなかったかと思しますので、御検討いただければと思います。

資料2-2のほうで、政策評価書の事後評価のほうなのですが、ロジックモデルの記載事項として「解決すべき問題・課題」を書くようになっていまして、政策評価を行うとき、事後評価を行うときに、このロジックモデルで記載した「解決すべき問題・課題」がどこまで解決されたのかとか、そういった観点からの分析なり評価をこの事後評価のどこで書くようになっているのかということ、これは御質問であります。

以上です。

○白石座長

事務局、お願いします。

○入野課長補佐

ありがとうございます。

まず「原則として1段階」の記載のところは小野委員からも御意見をいただきましたけれども、書き方を考えたいと思います。

2点目、参加者の理解度の向上、アウトカムの例なのではないかという点は御指摘のとおりかと思しますので、よくアウトカム、アウトプットの例、各施策の統一がしっかり取れるように、適切な例示ができるようにしたいと思います。

インプットの点についても、様式を簡略化する過程でごちゃっと一つになってしまいましたけれども、御指摘のとおりインプットに予算が入り、アクティビティが活動という形にこれまでなっていましたので、そこがはっきりするように書いていきたいと思っております。

最後に4点目、御質問いただいた解決すべき問題がどこに書かれるのかというのは、評価書の真ん中の欄「施策の分析」のところで書いていただくことをイメージしております。

た。この解決すべき課題についてどれぐらい取組が貢献して、どういう状態になっているのか、分析していただくところが記載いただくことかと思いますので、その趣旨が伝わるような書き方なり様式で、例えば部局に様式を示すときにはそういったものにしていくようにしたいと思いました。

○佐藤（徹）委員

ありがとうございました。

○白石座長

ほかにはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

個人的にはロジックモデルに「施策の概要」欄が設けられるのは大変助かるかと思いました。

もし御質問等ないようでしたら、よろしいでしょうか。

では、先生方から様々な御意見をいただきまして、ありがとうございました。

今後につきましては、事務局に今日の議論を踏まえてこの基本計画の作成を進めてもらえればと思いますけれども、委員の皆様、そのような進め方でよろしいでしょうか。

（首肯する委員あり）

○白石座長

ありがとうございます。

それでは、議題1については以上といたします。

続きまして、議題2の「その他」なのですけれども、こちらはいかがでしょうか。

事務局、お願いいたします。

○入野課長補佐

「その他」は、今日皆様からいろいろ御意見をいただきまして、特にこちらから追加ということはございませんので、議題1のみとさせていただければと思います。

○白石座長

分かりました。ありがとうございます。

横田委員、お願いします。

○横田委員

1点だけ、本当にざっくりした意見なのですけれども、もともと政策評価審議会で本件基本方針を議論していたときに、アジャイル的に変化をさせる、ちゃんと政策を頻度高く

見直しながら、変えるべきときは変えていくというところを方針として書いたように記憶をしていて、それは決して年に1回のこれを書くためのものではなくして、日々活用していただきたいということが本論だったと考えておりますので、そういった意味では、政策評価の側として引継ぎのタイミングでうまく使っていただくのももちろんそうですし、そういう日々使いたくなるというか、使っているであろうということが見えるようになるのか、うまく促していくことも重要なのかと思ったので、念のためお伝えだけしておきます。

以上です。

○白石座長

事務局、何かあればお願いします。

○入野課長補佐

ありがとうございます。

政策評価の形は形として、それをどう活用してもらえるのか、活用してもらうために、例えばこういう評価書に変えたのだから使ってくださいなどということを、この評価の場面だけではなくてほかの場面で伝えていくですとか、何か府内に図っていく方法を考えていきたいと思います。

○白石座長

ありがとうございます。

それでは、本日の議事は以上で終了いたします。

事務局にお返しします。

○入野課長補佐

ありがとうございます。

皆様、本日は貴重な御意見をいただきまして、ありがとうございました。

次回の懇談会についてですけれども、今日いただいた意見も踏まえまして、次回は基本計画の案という形で案を作成して皆様に御確認をいただければと思っております。次回については3月に開催を予定しておりますが、日程調整につきましては追って御連絡をさしあげたいと思います。

こちらからは以上でございます。

何か御質問等はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして本日の懇談会を終了いたします。今日はお忙しいところお時間をいただきまして、ありがとうございました。

(以 上)